

令和2年度市民提案「市長への提言～私の事業アイデア～」募集結果について

1 応募結果

- (1) 応募期間 令和2年7月15日(水)～令和2年8月14日(金)
- (2) 応募件数 27件
 応募者数 20人

2 募集方法

市ホームページ、市広報7月15日号、TCN、ツイッター
チラシ設置(市役所、各市民センター、中央図書館、健康センター、子育て支援センター、障がい者サポートセンター)

2 提出方法

方法	件数(人数)
電子メール	20件(14人)
郵送	4件(3人)
持参	3件(3人)

3 提案・要望

内容	件数
提案	27件

4 内容内訳

項目	件数
道路・交通	5
公共施設	4
生活環境	4
観光・PR	3
商業・農業・林業	5
高齢者福祉	2
子育て支援	1
健康	2
行政運営	1
計	27

令和2年度「市長への提言～私の事業アイデア～」市民提案結果

	提案(要旨)	市長の考え
1	<p>『電線の地中化』</p> <p>電線の地中化をする。電線は青梅の緑豊かな美しい景観を悪くしている。また電柱は歩道を狭くし、死角による事故の危険や、災害時に電柱が倒れたり、電線が切れる危険もある。</p> <p>電線の地中化により、歩道は広くなり、景観も良くなる。また、自然災害にも強くなり、安心して住めるまちづくりとなり、青梅市への移住者が増える。</p>	<p>電線の地中化については、通行の円滑化や景観の向上などに資することから、河辺駅北側の道路など幅員が広い道路から始めております。引き続き電線の地中化に取り組んでまいります。</p>
2	<p>『青梅線・西武線の相互乗入れ』</p> <p>青梅線と西武線の相互乗入れを実施する。青梅駅から東京駅(都心)までの乗車時間が長すぎることや、都心からの交通アクセス(電車・バス等)が非常に悪く、交通費も高価であることから、住環境として青梅に移住する人が少ない。拝島駅をセンターとして青梅線と西武線の相互乗入れを実施することにより、青梅に来やすくなり、交通費も安価になるため、移住する人が増加する。</p>	<p>公共交通については、人口減少のもと利用者の減少が進み、既存のサービス水準を維持することが難しい状況にあります。青梅線においても、利用者の減少が運行本数の減少につながっています。こうしたことを踏まえ、市民の皆さんには、「～乗って守ろう！使って育てよう！公共交通～」のスローガンのもとに積極的に公共交通を利用いただき、市民全体で支えていきたいと考えております。</p>
3	<p>『コミュニティバスの運行について』</p> <p>小型バスやワゴン型の車両でコミュニティバスを運行する。現在の市内を巡行するバスは運行回数が少なく、また近隣自治体と比較しても運行路線が少ない。そのため、最寄りの停留所までの距離が遠く、自家用車をメインに考えるのが現状である。市内をくまなく運行し、運賃を無料もしくは100円程度で利用でき、市内の病院やスーパーマーケットの駐車場を停留所に使用することで利便性が向上し、バスの利用者の増加と、店の収益増が見込める。また運転手の確保については臨時職員を採用することで雇用の拡充を図る。</p>	<p>新規にコミュニティバスの路線を作ることは、現在のバス路線全体を見直していかなければなりません。しかし、人口減少のもと利用者の減少が進み、既存バス路線を維持してだけでも難しい状況にあります。こうしたことを踏まえ、市民の皆さんには、「～乗って守ろう！使って育てよう！公共交通～」のスローガンのもとに積極的に公共交通を利用いただき、市民全体で支えていきたいと考えております。</p>

令和2年度「市長への提言～私の事業アイデア～」市民提案結果

	提案(要旨)	市長の考え
4	<p>『コミュニティバスを青梅に』</p> <p>羽村市の「はむらん」を基本に、バス各社およびタクシー会社が運営しやすいアイデアを出し、コミュニティバスを導入する。主に高齢者が利用することを念頭に、平日の送り迎えの手間や買い物、通院したい病院へ行けるようにして利便性を向上させる。運行の本数は限られても、走っていることの安心感の方が大きいと思われる。</p>	<p>公共交通は、地域の足としても、高齢者を守るためにも必要なものだと感じております。一方で、人口減少のもと利用者の減少が進み、運行本数の減少につながっています。既存のサービス水準を維持することが難しい状況にあります。こうしたことを踏まえ、市民の皆さんには、「～乗って守ろう！使って育てよう！公共交通～」のスローガンのもとに積極的に公共交通を利用いただき、市民全体で支えていきたいと考えております。</p>
5	<p>『青梅市内の路線バスについて』</p> <p>都バスそのものをマイクロバス化し、もっと小回りの利く路線を増やす。特に川向こうの駒木町や吉野梅郷、その他柚木町など吉野街道沿いに住んでいる人、あるいは青梅駅より西側に住む人のために実施して欲しい。例えば大型ショッピングセンター行などの路線もあるとなお良い。人口減少や高齢者の運転免許証の返還など益々生活しにくくなりつつある中で気軽に手頃にバスを利用できるように、地域に密着した利便性のある交通網にする。</p>	<p>都バスをマイクロバス化し、新規に路線を増やすことは、都交通局と協議し理解を得たうえで、現在のバス路線全体を見直していかなければなりません。しかし、人口減少のもと利用者の減少が進み、既存バス路線を維持してだけでも難しい状況にあります。こうしたことを踏まえ、市民の皆さんには、「～乗って守ろう！使って育てよう！公共交通～」のスローガンのもとに積極的に公共交通を利用いただき、市民全体で支えていきたいと考えております。</p>
6	<p>『国立公園入口に駐車場・公園・トイレ設置』</p> <p>日向和田駅、神代橋通りは秩父多摩甲斐国立公園の入口であるが、公共の駐車場、トイレが完備されていないため、神代橋付近の梅郷5丁目地域に、駐車場や植栽した樹木、子どもの遊び場のある公園を作り、その中に周囲の自然にマッチしたトイレを設置する。</p> <p>設置により、観光客やビジネスマン、一般の人が安心してトイレや休憩場として利用でき、子ども連れの方々も遊び場でゆっくりできる。また、梅まつりの時期にはさらなる有効活用が期待できる。</p>	<p>本市の自然は大変豊かであり、本市の魅力のひとつでもあります。提案されている神代橋周辺には、設置できるような市有地がありません。設置の必要性や場所の提供などについて、地域の皆さんでさらに議論を進めていただき、再度より具体的な御提案をいただきたいと思えます。</p>
7	<p>『公共の場所へのごみ箱設置』</p> <p>私が住んでいる多摩川沿いに市民グラウンドがあるが、タバコの吸い殻、犬の糞、ペットボトル、空き缶、お菓子の袋等の放置が後を絶たない。ゴミは各自が持ち帰り適正に処理するのが原則だが、公共の場所にゴミ箱を設置したらどうか。ただし、設置場所は管理人が常駐する施設、または、防犯カメラで監視できる場所に限るとする。護美箱の護美は当て字であるが、美しさを守るための箱があっても良いのではないかと。それは環境への意識の向上につながる。</p>	<p>提案者の意見と同様に、公共の場所では、利用者自身のごみをしっかりと持ち帰り適正に処理をすることがマナーです。引き続き、市では、利用者のマナーについて周知・啓発を行ってまいりますので、地域のみなさんも一緒に地域の美化に御協力をお願いします。</p>

令和2年度「市長への提言～私の事業アイデア～」市民提案結果

	提案(要旨)	市長の考え
8	<p>『スーパー、コンビニのレジそばにもえるゴミ袋のバラを置く提案』</p> <p>スーパーやコンビニのレジ近くに、市の指定の燃えるゴミ袋を1枚ずつ購入できるように置き、袋の必要な人は、それを1枚購入し、買った物を入れて帰る。その後はゴミ袋として利用が可能。レジ袋が有料になり、テレビで他市の取り組みとしてやっていた。エコバッグを忘れても、レジ袋代を払う必要がなく、ゴミにならない。</p>	<p>ごみ袋をレジ袋にする案は、環境にやさしい妙案だと思います。市でも一部の店舗で取組を実施しております。</p> <p>今後も御協力いただける店舗を呼びかけながら、事業の拡大に努めてまいります。</p>
9	<p>『河辺駅ロータリーの階段の一番下の階の色の提案』</p> <p>河辺駅のロータリーの階段の一番下の階だけが黒い色をしている。先日お年寄りがもう一段あるのがわからずに踏みはずし、ものすごい勢いで転んでケガをしていた。河辺駅のロータリーの階段の一番下もはっきりした色で塗れば良いと思う。踏みはずす事故の予防になる。</p>	<p>御指摘ありがとうございます。担当課へ事故再発を防止するよう対応を指示いたしました。</p>
10	<p>『市営プールの再利用について』</p> <p>長年放置されているプールや建物を一部改修し、河川工事をし、川砂も撒いてビーチバレー場にする。市民が年中を通じて使用できるようにし、次期オリンピック競技に参加できる人を養成する。市オリジナルのユニホームやボールを作成し使用する。</p> <p>実施により、交通機関、飲食店、宿泊所、衣料関係、ほか全域が明るくなる。学校には新しくビーチバレー部ができ、交流が生まれ、元気な子供達の笑顔を見る事ができる。オリンピック参加の将来に努力する子ども達ができる。河川工事もすることで多摩川の流れも良くなり、長年の風水害での流木、石類もなくなり近郊住宅に浸水の危険がなくなる。</p>	<p>旧釜の淵公園水泳場周辺については、自然環境など高いポテンシャルがある地域であると思っています。御提案内容はアイデアとしては面白いものですが、競技者人口が少ないことなどが大きな課題です。旧釜の淵公園水泳場や旧釜の淵市民館などの利活用を考えておりますので、このなかで検討したいと思います。</p> <p>なお、旧長淵水泳場については、エクストリームスポーツ施設として利用できないか検討を進めています。</p>
11	<p>『青梅市民球技場の最適活用化』</p> <p>1年を通して運動、花見、河原遊び、バーベキュー、キャンプ、釣りなどができる施設にする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①台風対策として市民グラウンド前の川の流れを緩やかにする。 ②川の氾濫を防ぐ土手を作り、遊歩道を設置する。 ③バーベキューやテントが張れる場所を設置し有料化する。 ④バーベキューセットやテントなどの備品を有料化する。 ⑤ごみの廃棄を有料化する。 ⑥駐車場・シャワー設備・売店を設置し有料化する。 ⑦管理者の雇用確保。電力は太陽熱、風力等を使用する。 <p>実施により、利用者の増員を図る。利用料による売上は施設拡充に回す。市民サービスの向上、福祉の充実、経費削減等が実現でき、かつ環境改善により安心・安全な魅力ある施設と考える。環境・施設の充実化により、住みたい街青梅を実現する。</p>	<p>市民球技場については、スポーツ施設だけでなく、親水利用なども多く、多くの市民に利用いただいております。提案の事業は、より魅力を高めるアイデアのひとつであると思います。しかしながら、人口減少が進み、行政のコンパクト化が求められているなかで、市が取組むことは難しい状況です。民間事業者等から具体的な事業提案があれば、市としてできることを検討したいと思います。</p>

令和2年度「市長への提言～私の事業アイデア～」市民提案結果

	提案(要旨)	市長の考え
12	<p>『宮崎邸について』</p> <p>市内にある古民家(宮崎・吉野邸)にて手打ちのそばやうどんを食べられるようにする。調理はプレハブで行う。座敷で食べるだけなので改装する事はない。従業員はシルバー人材を活用する。あゆみ橋はライトアップする。来客した人がそこで食事をする事で賑わいを見せ、活性化すると思う。青梅の名物になる。</p>	<p>文化財保護法の改正などもあり、市における文化財の保存・活用については見直しを進める必要があると考えています。御提案いただいた飲食での活用に限らず、保存とのバランスにも考慮しながら、幅広く様々な角度から検討を行い、新たな活用方法について実現させていきたいと思っています。</p>
13	<p>『市民のにぎわい創出』</p> <p>東青梅1丁目新施設のにぎわい創出のため、以下の施設を設置し、市民が行きたくなる、日常と非日常を楽しむ憩いの施設にする。</p> <p>①市民カルチャーセンター&児童館</p> <p>木工室や被服室、陶芸室などあらゆる趣味に対応する部屋を設置し、そこで講座を行う。学生無料やシニア割を実施。管理はボランティアで行う。不登校児や放課後の児童の居場所になり、趣味を通じたシニアとの多世代交流や仲間づくりになる。</p> <p>②室内アスレチック&フードコート</p> <p>子どもを遊ばせながらランチ&お茶ができる場所は需要が高く、子育てママのストレス発散にもなる。</p> <p>③市民フリマ用屋内スペース</p> <p>屋内のため天候に左右されず出店でき、買い物がしやすい。</p> <p>④その他</p> <p>民間カフェや大ホール、宿泊施設など商業施設を組み合わせ、施設管理費を賄う。婚礼施設は現在の古めかしい外観でも毎月数件の需要があり各団体のパーティー・会食需要もあるため残す。</p>	<p>東青梅一丁目地内諸事業用地等については、中心市街地のにぎわいを生む活用方法について検討を進めています。いただいた提案は、多くの事業があり、参考となります。今後とも、まちの活性化や人々の交流の視点を持ち、市民意見を伺いながら、いろいろな角度から検討を進めていきます。</p>
14	<p>『Welcomeキャンペーン』</p> <p>英語の「WELCOME」のうち、上4字「WELC」を白く、下3字「OME」を青く(青梅ブルー)色付けしたロゴを作成する。</p> <p>青梅駅ロータリーや青梅市役所などに巨大モニュメントを設置する。また、市内飲食店や商店にロゴを利用したプレートやカードを配布し、来訪者へのPRや写真撮影に利用してもらう。青梅市総合長期計画においてもシティーセールスの視点に立ち、インターネットを活用した情報発信や訪日外国人も含めた観光客受け入れ体制の充実など多面的な観光振興策に取り組む必要があるとしている。</p> <p>実施により、来訪者に「WELCOME」というメッセージを発信し、訪日外国人に対しても直接的に歓迎の意を表すPRになる。また、Facebook や Instagramなどで個人ユーザーが食事や観光地を世界に向けて発信し、口コミ的な要素に近い感覚で集客に繋がるといった状況が発生し、市の観光産業に対して有効な手段となる。</p>	<p>市で提案内容を実践するよりも、お店などの事業者の皆さんが、観光客などに対しお客さんを呼びこむための方法として、活用すれば効果が発揮されるのではないかと考えます。青梅市では、観光事業者さんなどに対し「Ome Blue」の普及、活用に取り組んでいます。まずは引き続き「Ome Blue」の定着に注力していきたいと思っています。</p>

令和2年度「市長への提言～私の事業アイデア～」市民提案結果

	提案(要旨)	市長の考え
15	<p>『青梅のバンジージャンプ』</p> <p>青梅にドッキリするような場所がない。青梅に流れている多摩川にバンジージャンプできる場所を五か所設置する。話題性があり直ぐに SNS で全国に広まり大勢のジャンパーが来て面白くなる。</p> <p>①釜の淵の大きな岩の上からのバンジー ②和田橋の近くからのバンジー ③神代橋の近くからのバンジー ④奥多摩橋の近くからのバンジー ⑤御岳駅の近くは特別に高い矢倉の上からバンジー</p> <p>五か所回れば達成感がある。</p>	<p>御提案いただいた実施場所は、国や都が管理している場所となります。橋などでの実施は、交通阻害となる可能性もあり、許可等を得ることは難しいと思います。青梅市は、豊かな自然があり、場所によりいろいろな特徴があります。人工物を利用しなくても、これらを活かした利用を工夫することで、遊び場となる場所は多くあると思います。青梅市の自然を活かしたさまざまな楽しみ方を広めたいと考えています。</p>
16	<p>『カーリング場建設の提案』</p> <p>梅がだめになり、青梅市に集客できるものが何もない。</p> <p>青梅市にカーリング場を作り、「カーリングをやりたい人は青梅へ」となったら絶対人が来ると思う。北見市のような小さな市でもできるのだから、できるのではないか。家族で手軽にできるスポーツで人気があるができる場所がない。</p> <p>実施により、人が来る町になる。町が活性化する。</p>	<p>提案内容としては面白いアイデアであると思いますが、競技者人口が少ないことや、建設や維持管理の費用面などが大きな課題だと思います。</p> <p>青梅市では、以前、天然の氷が張り、多くの市民がスケートを楽しんでいました。スポーツが盛んな地域性もありますので、スポーツ活動への支援は進めたいと考えています。</p>
17	<p>『まちの駅青梅』のあり方について</p> <p>「まちの駅青梅」は店が狭いことと駐車場が無いことが残念である。又、青梅駅周辺にあるにも関わらず、プラムカード加盟店でも無く、独自のあまり大してポイントにならない還元率のポイントカードを作成しており、購買意欲を失わせる。又、この地域は旧長崎屋にあったスーパーマルフジが撤退した後、これといった買い物できる店舗も少なく、高齢化していく街中の人たちの不安を募る。</p> <p>仲町 295(りそな銀行)隣にある、当初ローソンオープン予定だった空き店舗を利用し、青梅市の物産品の増量、駐車場の確保、地域住民への新鮮な商品を提供する。</p>	<p>御提案の施設は、市の施設ではないため、市で活用することは難しいと思います。青梅市では、青梅駅周辺の中心市街地の活性化に取り組んでいます。民間のアイデアを活かした取組を進めていきたいと思っています。</p>

令和2年度「市長への提言～私の事業アイデア～」市民提案結果

	提案(要旨)	市長の考え
18	<p>『青梅市民が生産者で消費者』</p> <p>農家の高齢化により青梅に住んでいても農業を経験する機会がほとんどなく、若い人が農業を選択するキッカケもない。</p> <p>その機会を作るため、土地を市で借り、管理指導してもらえる農家さんを雇って参加者に農業を経験してもらおう。農作物は個人や飲食店に買ってもらい地産地消し、売上は市と参加者で分配する。</p> <p>実施により農家になる人が増え、高齢者のやり甲斐や健康にもつながる。大規模になれば収入源にもなる。また、市内の飲食店や会社に発注して加工品を作って青梅の特産品を作れる。</p>	<p>人口減少の下のまちづくりは、参画する市民等がさまざまな役割を担う必要があると考えています。この点において、提案は優れていると思います。また、農業にふれあう機会を創出することによる農業への関心や、地産地消の推進など、農業がもつ多面的な機能の発揮を促す点も有効だと思います。しかし、市が農地を保有することが難しいなど課題もあります。現在、市では、新たに農業を行いたい方への支援や、市民に農園を貸し出すなど、農業に接する機会を増やす取組を行っていますので、これらの取組を進めるなかで、提案事業について研究していきます。</p>
19	<p>『青梅をきのこの町に』</p> <p>市の森林面積は63%を占め、その森林はきれいな空気や環境を作る。しかし現在ほとんどの森林が管理されていない針葉樹である。青梅の自然を生かし、カーボンフリーを実現するため、青梅の山林を少しずつでも広葉樹の森に変えて、昔の自然のままの里山に変え、そこで育った広葉樹できのこを作り、青梅市をきのこの町にしてはどうか。</p> <p>実施により、衰退した林業の復活にもつながる。青梅市の自然を生かし、市民の眼を楽しませ自然災害を減らし、カーボンフリーを實行し、原木きのこを生産し、このきのこを食べることで健康になり、青梅市の自然を生かした町づくりができる。</p>	<p>令和2年9月30日に青梅市と青梅きのこ生産振興会ならびに株式会社やまびこと、「里山等広葉樹林の整備と活用に関する協定」を結びました。これにより、広葉樹林を再生し、自然災害の防止を図るとともに、萌芽更新を利用したきのこの生産ができると考えています。まずこの取組をしっかりと進め、軌道に乗せたいと思っています。</p>
20	<p>『花粉症ゼロの市へ！』</p> <p>青梅市の大半は森林が占めており、スギ・ヒノキが多く、花粉症により健康被害があり、医療費もかかる。林業が衰退し、人工林が管理されず、土砂災害の危険がある。市が森林所有者に代わり、スギ・ヒノキを伐採する。伐採後の森林は広葉樹を原則とする。森林所有者へ意向調査を実施し、市による森林整備の体制を整える。所有者不明な森林は相続人を調査する。荒廃し管理不能な森林は所有者から市に寄付してもらい市が管理する。花粉の出ない広葉樹による林業を条件に新規事業を行う企業へ開業資金の一部を助成する。スギ・ヒノキがなくなり、花粉症ゼロの市へ。</p>	<p>花粉症発生源対策として、都の事業を活用した主伐などによる樹種更新などの促進に努めています。しかしながら、これらの事業にも、費用面などで課題があります。また、効率的な森林の施業と適切な森林の保護を目的とした森林経営計画の策定を進めるため、令和3年度より、長期間整備されてない森林所有者に対して、意向調査を行うこととしています。こうした取組を通じて花粉症発生源が減少するように取り組んでいきたいと思っています。</p>

令和2年度「市長への提言～私の事業アイデア～」市民提案結果

	提案(要旨)	市長の考え
21	<p>『青梅杉の精油開発』</p> <p>青梅市の6割を占める森林エリアの多くは放置林となっているが、スギやヒノキの市場価値が下がり林業家が激減、現状公費で間伐作業を進めている状態である。</p> <p>杉材(葉・枝・おが粉)を利用した“精油(アロマエッセンシャルオイル)”を開発し、青梅市内の蒸留所を開設する。杉精油を素材としたアロマ関連商品の開発販売を行う。</p> <p>実施により、放置林の杉材利活用(森林・水質環境保全)や製材所などの廃棄物再利用(おが粉)になる。また、体験蒸留所を設置すれば新たな観光地の拠点になる。青梅杉のブランドを復活し、精油の産地となることで『緑豊かな』青梅ブランドのPRになる。</p>	<p>建築資材でない活用に着目した提案には興味を抱きました。しかしながら、市がアロマエッセンシャルオイル事業に参入することはできません。提案いただいた内容を森林組合や森林所有者団体などに御紹介いたしたいと考えています。また、取り組みたい民間事業者があれば市としても応援したいと思います。</p>
22	<p>『元気高齢者の生き甲斐、財政安定化』</p> <p>高齢者が産業祭等に行く事が困難になってきているため、通所介護事業者と業務委託を結び、各地域から会場までの送迎および介助を行う。また、日曜日等近隣のグラウンドを有料駐車場にして、地域の特産テントを出店し、ピストンバスを出す。さらに、ドローンを活用した配食サービスや薬の配達などを行う。</p> <p>実施により、今まで行く事が出来なかった高齢者が参加できるようになり、交通整理員として雇うことで元気高齢者の働く場も提供できるため、意欲向上につながる。また、特産物販売による経済効果が期待できる。ドローンを活用することで高齢者世帯が生活しやすくなり、災害時にも活用が期待できる。</p>	<p>高齢者に生きがいや楽しみを感じていただくことは大切であると思っています。しかしながら、市の行政サービスにも限界があり、イベント等において自宅から会場まで個別に送迎を行うことはとても難しいです。御家族や地域の皆さん同士などと御一緒に足を運んでいただくよう御協力をお願いします。市としては、高齢者など歩行が難しい方を乗せた車がなるべく会場入口までいけるよう検討したいと思います。ドローンの活用については今後研究してまいります。</p>
23	<p>『高齢者の免許返納推進事業』</p> <p>青梅市はクルマ社会であり70代以上のドライバーも多く、今後も増加の一途。家族も本人も運転に不安を感じていても、日常の暮らしの移動手段としてバスは利用しづらく、免許返納に踏み切れない人も多い。</p> <p>免許返納(もしくは70歳以上)世帯限定のタクシーのサブスクリプション(月額制)、もしくは前払いチケット制を実施する。例えば月額2万円で100km利用/3万円で200km/4万円で300kmなどのチケットを70歳以上限定で販売し、通常メーター価格より低価格に設定する(100~200円/kmなど)。</p> <p>実施により、タクシー会社もこれまで利用されていなかった層から、月額のまとまった収入が見込めれば全体増収となり、公費をかけず自由に使いやすい高齢者の新しい移動ツールとなりうる。</p>	<p>市民、特に高齢者の足の確保については課題のひとつであると考えています。公共交通については、青梅市公共交通協議会において様々な検討をしているところです。提案いただいた内容やタクシーチケットによる助成などの対処が必要ではないかと思っております。ただ、市域が広すぎることや費用がかかることなどの課題があり、すぐには実施できません。また、現在試験的に実施している高齢者等に対する買い物支援サービスの実施結果なども踏まえ、あり方を研究していきます。</p>

令和2年度「市長への提言～私の事業アイデア～」市民提案結果

	提案(要旨)	市長の考え
24	<p>『保育士の質の向上による子供が安心・安全に暮らせるまちづくり』</p> <p>保育士の仕事は、仕事量が多く、給与が安い、休みづらいというイメージである。保育園に見学に行っても、保育業務に疲れているような保育士さんを見かけ、子供を預けるのに不安を感じる状況である。</p> <p>保育士の待遇改善のため、市内の保育園・幼稚園に勤めるすべての保育士に、給与面での保育士処遇改善のための助成を市独自で行う。</p> <p>また、子どもと接する職業での性犯罪を防止するため、市内の保育園や学校、学童などで働く人の性犯罪歴を確認し、働けないようにする。</p> <p>さらに性犯罪予防のためには幼児への性教育も必要であることから、保育士へ研修などを行い、幼児に必要な性教育を実施する。</p> <p>実施により、保育士の質の向上につながり、子どもが生き生きと過ごせる環境を作ることができる。また性犯罪を未然に防ぐことができる。子育て支援を実施することで、人口増や地域経済の活性化による税収増、出生率の回復が期待できる。</p>	<p>保育士の待遇改善については、保育士の経験年数やキャリアアップの取組に応じた補助や、国基準を上回る保育士の配置に対する人件費補助を実施しています。</p> <p>保育士等の性犯罪歴の確認については、犯罪歴を照会する法的根拠がないため実施できません。しかしながら、選考する各保育事業者が適正に行っていると理解しています。</p> <p>幼児への性教育については、プライベートゾーンの問題や相手を思いやる気持ちなどが成長の過程で自然と身に付くような保育が日々実施されていると考えていますが、いただいた内容は保育園へ伝えてまいります。</p>
25	<p>『健康センターでの人間ドックの再開もしくは健康センターの再建』</p> <p>一昨年、久々に健康センターで人間ドック受診の申込をしようとしたところ、3月で廃止となり、指定医療機関での助成金制度になったが、申込資格者は青梅市国民健康被保険者もしくは後期高齢者医療被保険者のみで、受診することが出来なくなっていた。サラリーマンは外部の高額な医療機関での人間ドックしか受診できなくなった。大して交通渋滞が緩和されるような影響も与えない、くだらない道路整備をするのであれば、健康センターの再建と健康センターでの人間ドックの復活を提案します。</p> <p>実施により、地元で容易に人間ドックを受診でき、また安価である。健康増進により医療費の軽減につながり、市民への安心生活還元になる。</p>	<p>人間ドックについては、民間の実施医療機関も増加し、充実していることや、多摩地域の市で事業実施している自治体が本市のみとなっていたこと、健康センターや検査機器の老朽化が進み修繕等の費用がかかることなどから、平成30年度をもって廃止いたしました。民間の人間ドックを利用した青梅市国保・後期高齢の被保険者に対しては「青梅市人間ドック助成交付事業」による2万円の補助を開始しました。なお、協会けんぽや組合健保等の被保険者については、既に各団体による人間ドック補助制度がありますので、その制度を御利用いただきたいと思います。</p>

令和2年度「市長への提言～私の事業アイデア～」市民提案結果

	提案(要旨)	市長の考え
26	<p>『青梅市健康増進計画の深耕』</p> <p>平成20年度から開始した特定健康診査・後期高齢者医療健康診査は、50%強の受診率にとどまっている。また、受診者の結果データを健康センターで収集しているが、これを活用したフィードバックが十分出来ておらず、余り活用に期待されていない様に思える。</p> <p>「ふれあいとげんきのある健康なまち 青梅」実現のため、「AI活用による生活習慣病発症リスク予測」のシステムを導入し、フィードバックを実施する。</p> <p>実施により、生活習慣病発症リスクを把握することで、生活習慣の改善や中高年齢層の健康増進、医療費の低減が図れる。</p>	<p>市では、AIは活用していませんが、特定検診の結果から対象者を抽出し、生活習慣の改善にかかる行動変容を目的とした特定保健指導やデータヘルス事業を実施しています。また平成29年度からは、管理栄養士による「健診結果の活かし方講座」を実施し、健診結果を日常生活に活かしていただけるよう取組も行っています。さらに平成30年度からは、受診勧奨において、受診歴や年齢から対象者を絞り、健診受診者にはその結果から健康年齢を算出した結果を通知するという事業を新たに始めています。</p> <p>また、おもに高齢者を対象にした市オリジナル体操「梅っこ体操」も制作して普及に努めています。</p> <p>市民一人ひとりが健康維持を図ることができるよう支援していきたいと思えます。</p>
27	<p>『活力ある青梅市にするために』</p> <p>第6次青梅市総合長期計画、第2次青梅市環境基本計画が作成されているが、その進捗状況が市民にわかりやすく広報されていない。また、重点政策が明確に見えてこない。企画政策課にこれらの問題を解決する部署を設置する。メンバーは必ず民間の専門家・青梅市民で定年退職した専門家などで構成し、市民団体・市民などがいつでも意見交換の出来る場とする。</p> <p>また、市民団体の活動報告書等は市民活動センターに分け隔てなく設置し、市民に公開する。</p> <p>実施により、青梅市及び市民が望む政策を明らかにすることにより、市民に夢と希望がもてるようになる。青梅市民で専門性を持った定年退職者は生きがいと活力が出る。市民団体も社会に役に立っているというやりがいが出る。</p>	<p>市政運営のなかで情報共有と市民参画は欠かすことができないと捉えています。このため、総合長期計画や環境基本計画などの実施状況は年1回ホームページで公開しています。市民参画としては、審議会などの委員に市民代表を加えることやパブリック・コメントの実施なども行っています。また、市長への提言として、本事業も試行しています。こうした取組により市政に市民意見が反映できるよう努めておりますので、活用いただきたいと思えます。なお、市民団体の活動報告書の設置については数も多くスペースもないことから難しいと考えています。</p>

※提案(要旨)については事実と異なることもありますが、提案者の趣旨に反しないよう留意しながら、市がまとめています。